

基礎地盤コンサルタンツ：アジアの自然環境に適応したグリーンインフラプロジェクト



Development of Geothermal Energy

日本では、世界の地震の約2割が発生し、毎年、台風による洪水や土砂災害が発生しています。このような厳しい自然環境の中で、日本のインフラ整備は常にこれら自然の課題を考慮しなければなりません。

「このような厳しい環境の中で、古来、日本人は絶えず自然と対話を続け、自然に対峙するのではなく、自然環境にあわせて社会を築き、その礎となるインフラを整備してきました。」と語るのは、基礎工学や土質力学を専門とし、海外で

6,000件以上のプロジェクトに携わってきた世界有数の地盤コンサルティング会社である基礎地盤コンサルタンツ株式会社の代表取締役社長、柳浦良行氏だ。「私たちは、アジアの自然環境にマッチした「グリーンプロジェクト」が、今後のすべてのインフラ開発の基本になると考えています。」

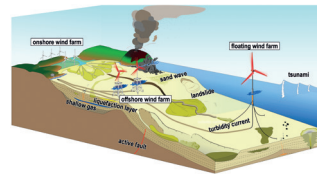


Ramsar Wetland (Kasai Marine Park)

現在、基礎地盤コンサルタンツが取り組んでいるグリーンプロジェクトは、洋上風力発電や地熱発電、動植物調査

や保全検討、グリーンインフラの構築などです。このように、サステナビリティのベストプラクティスと従来のエンジニアリングの発展を結びつけることで、アジア諸国の発展に貢献することを目指しています。

「例えば、日本は欧米に比べて洋上風力発電の導入が遅れています」と柳浦氏は説明する。「その理由のひとつは、日本の地質が複雑であるため、地盤の状態を慎重に評価し、調査、設計、施工、維持管理方法を日本の自然環境に合わせる



Risk Assessment for Offshore Geohazard



「新しい地盤調査技術を開発し、アジア諸国でのビジネス拡大につなげたいと考えています。」

Yoshiyuki Yagiura,
President of Kiso-Jiban
Consultants Co., Ltd.

必要があるからです。今後、このマネジメント技術を日本と同様に地質構造が複雑で自然災害の多いアジアに輸出することを目標としています。

Kisojiban
www.kisojiban.com